

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 佐野将大

所属: 香川県立高松養護学校

記録日: 平成29年9月15日

キーワード: 重度重複障害 過ごし方 スケジュール 睡眠

【対象児の情報】

・学年 高等部2年生

・障害と困難の内容

☒知的障がいを伴う自閉症、肢体不自由

☐重度重複障がい

【活動目的】

・当初のねらい

「どんなスケジュールだったら、心地よく生活を過ごすことができる?」・・・卒業後を見据えて

家族のこと、地域のこと、相手のこと。いろいろな事柄の組み合わせで決定されていく卒業後の過ごし方選択の過程において、ほんの少しでいいので、本人の意向（本人発信の何か）を反映させる方法は無いだろうか。

・実施期間

平成29年5月～平成30年1月

・実施者

佐野将大

・実施者と対象児の関係

元学級担任（小学部4年～6年） 保護者学習会等でかかわりを続けている。



【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

現在は高等部2年生の男子生徒であるA君。

実践の位置づけをより明確にさせるため、少し時間をさかのぼりながら報告する。

A君を担当したのは小学部4～6年生のとき。今から7年前に担任になったのがきっかけだった。

当時（小4）のA君の様子で今でもはっきり覚えていることがある。

教室のロッカーの上にある絵本をAくんは取りたかったのだろう。そこまで四つばいで移動し、届かないのを確認すると、彼の後ろで見ていた私をちらっと振り返って確認した。

僕がじっと眺めているのを見るやいなや、Aくんはパニックに。

・・・なんで見ているのに手伝ってくれないんだよ！

と言っているようだった。

そこからしばらくの間、私とコミュニケーションの練習をしていくことになるのだが、

このエピソードから少し想像できる通り、A君はとても「混沌とした」やりとりの世界にいた。

それと関係しているかどうかは分からなかったが、同時に「睡眠障害」ももっていて、

睡眠障害の治療も同時に受けている、という状況だった。

○ A 君のこれまでの睡眠とコミュニケーションの様子

時期	睡眠障害の様子	コミュニケーションの様子
小学部 低学年	非常に不安定で、 睡眠の治療を受ける。	混沌としている。 はっきりとした要求や拒否の表出がある (絵本をとって、暑いのは嫌だ、等) が、 <u>それを冷静に伝えるための手段をもたず</u> 、必死で訴えたり泣いたり怒ったりあきらめて嘆いてしまったりするような状況である。 さらに、その場面になると理由が無くてもパニックになってしまう、状況も見られる。
小学部 高学年	完全になくなったわけではないが、 <u>症状の改善</u> が見られ始める。主治医の先生に担当が呼び出され、「症状が良くなっているんだけど、学校で何かしたの？」と尋ねられる。	学校で、VOCA (ビッグマック) やジェスチャーカードを使って「 <u>冷静に呼ぶ</u> 」「 <u>頼む</u> 」ことができるようになる。 家庭でも、A 君がビデオを見ているときに「 <u>冷静に</u> 」保護者を呼んで、 <u>困ったことを何とかしてもらおうことができるようになる</u> 。 家庭でも A 君の思いをくみ取り、より安心して過ごすことができるようにと保護者が勉強や取り組みを始める。

○小学部高学年のときに実施していたコミュニケーションの学習の様子 (一部)



- ・ 大きな丸いボタンを押したら「せんせー」と録音された音声再生されるコミュニケーションを支援するための機器 (VOCA) を使って先生を呼ぶ。
- ・ カードを一枚ずつ確認しながら、休み時間の過ごし方を選択する。
- ・ 先生のところにカードをもって移動し、カードを手渡す。
- ・ 肩に吊るしてある「お願い」カードを先生に提示することで、依頼する。
- ・ 選んだ方法で休み時間を過ごす。
- ・ タイマーがなると、終了する。

中学部	主治医の先生監修のもと、家で A 君の寝る部屋ができる。 <u>夜一人で寝るようになる。</u> 	保護者が A 君とのやりとりを「利き感覚」「かわりの手順」「タイミング」「環境づくり」といった視点から工夫し、しっかりと生活に馴染むようになる。<u>家庭生活の場面でのやりとりが整えられていく。</u> お出かけ前の A 君の様子を観察してみよう、という<u>黙って観る観察実践</u>により「朝の支度(30 分)」の整理が進み、生活がより安定する。
------------	--	---

○中学部のとき実施した「黙って観る観察実践」で A 君が反応していた「お出かけ前の出来事」

お出かけ前の様子を黙って観る



- ・ 母が荷物を準備
- ・ 玄関に移動
- ・ 車のエンジンをかけ、荷物を積む
- ・ 部屋の横のドアをあける
- ・ 外出用車いすを準備
- ・ スロープをセット「ガチャン！」
- ・ 言葉かけ、移乗、車へ

どの手順にも A くんは反応をしていた（特に音に）
↓
A くんにとっては「今からでかけるよ」のサインになる

高等部	※現在	※新しいニーズが発生する。 <u>A 君と保護者の関係が話題の中心だった。</u> 保護者が A 君のことを知り、保護者が家の中でどうやりとりするか、A 君の思いをどう聞き取るか、A 君が安心して落ち着く環境をどう作るか、が主題であった。 <u>A 君が見る景色を想像するようになった。</u> 保護者とのやりとりが安定してきたこともあり、話題の構造に変化が生まれた。
------------	------------	---

○新しいニーズの発生

これまで、A 君の思いをどうくみ取り、安心できる生活環境をどう準備できるか、という話題が中心であった。それはつまり 保護者—A 君—の関係性をどのように作っていくか、という話題でもある。

それらの話題もある程度落ち着き、高等部になった今となっては、「A 君にとって何が必要なんだろうか」というように考えることが多くなってきた。「A 君は、どのような生活を望むのだろう。何が好きで、どこに行きたくて、誰と過ごしたいのだろう。このようなことを聞き取りたいと思うんです。」と。

○実践の位置づけ

【進路指導“+α”としての実践】

A 君の将来の過ごし方に関しては、進路指導をしっかりと受けていただき、それによって主軸となる部分が決められていくのだろう。家族の都合、地域の状況、相手とのタイミング、制度の状況・・・、こういってA 君にとっての適切な過ごし方を見つけていくことがとても重要であると思う。この部分に関しては、今まででもこれからも何も変わることは無い。

そのような進路指導とはまた別の流れをもった取り組みとして取り組みたいと考えた。つまり、

- ・進路指導へのあらたな提案というわけではなく
- ・進路指導のなかに位置づけた実践というわけでもなく
- ・個性を伴った、別の流れがある実践として位置付けて

A 君本人の意向が入った“日常生活づくり”を、そっと応援する

ということを目指して保護者とともに取り組んだ。

○「本人の意向」をどう聞き取ればいいのか

カードで「日常生活づくり」に関係してくる情報を A 君から聞き取るのは難しいと考えた。

生活づくりに必要な情報として、「疲れやストレス、活動の量」が知りたいと思ったからである。

○実践の仮説

これまでの経緯をみても、生活の変化が睡眠に影響を与えやすい A 君。

もしかして、「過ごし方の違い」が睡眠の質の変化に表れているかもしれない。

睡眠分析アプリである「Sleep Cycle」の「睡眠メモ」機能を上手く使えば、

「A 君の生活を組み立てるヒントとなるもの」を得ることができるのではないだろうか。



Sleep Cycle alarm clock - 睡眠アプリ

開発: Northcube AB

Sleep Cycle が測定できること	測定結果の活用案
* Sleep Cycle は iPhone の高感度加速度センサーを使って睡眠中の体の動きを測定します。 ・分析結果の詳細な統計とグラフを表示。 ・睡眠メモ: カフェイン摂取や夜食、ストレスが睡眠にどのような影響を与えるか記録できます。 ・睡眠傾向グラフ: 睡眠傾向グラフが実装されました。例えば、1 週間の中で何曜日に一番よく眠れているか等が一目でわかります。 (iTunes より引用)	“睡眠メモ”という機能を上手く使えば、A 君の生活を組み立てるためのヒントを得られるかもしれない。
・曜日や天気による快眠度傾向を探ることができる。	スケジュールを立てるためのヒントが得られるかもしれない。

→「どんな過ごし方が 睡眠に 影響を 与えているの？」と本人に聞くことができるかもしれない。

・活動の具体的内容

○実践の方法

- ・ A 君の保護者に、毎日「Sleep Cycle」で記録を取ってもらう宿題を出す。
- ・ 睡眠の質に影響を与えるかもしれない「睡眠メモ」を作る。
- ・ 月に 1 回程度、懇談を行う。
- ・ 生活に影響を与えやすそうな項目を懇談のなかで考え、「睡眠メモ」機能に追加していく。

○実践の様子

この実践の本体は、「懇談」である。 この実践においては、以下のことを大切にした。

【大切にしたこと①：Sleep Cycle の結果を因果関係ではなく相関関係として捉える】

睡眠メモでデータとして出てくる結果は、

睡眠の質と関係はあるかもしれないが、原因だということを示しているものではない。

(例えば)・・・A 君の場合 「プールが快眠度を下げる」というデータ。どう解釈するか。

解釈でありそうなもの ①

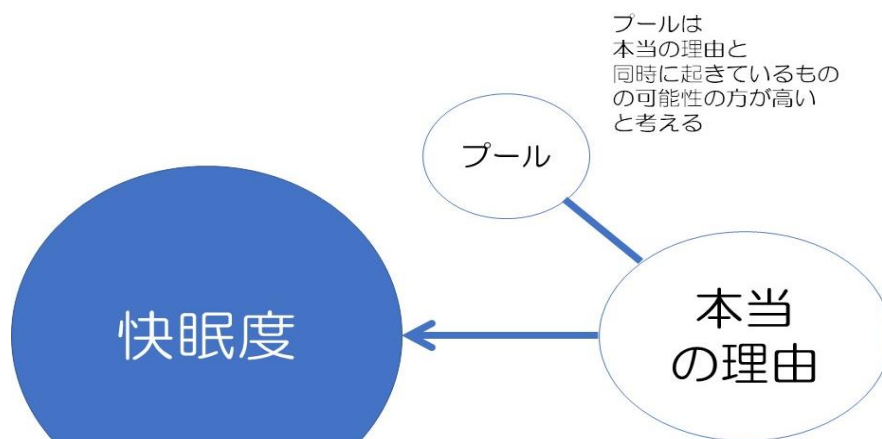
「プールは A 君には 合っていないのかもしれない (あんなに楽しそうなのに)」

解釈でありそうなもの ②

「このデータは何かの間違いなんじゃないか (だって、あんなに楽しそうなのに)」

この実践ではこのどちらの立場もとりません。

本当の理由は
「プール」と同時に起きている？



快眠度を下げた本当の理由はどこかにあり、
その本当の理由と同時に起きているのが「プール」である。

つまり、

「お母さん、プール、快眠度下げていますね。本当は何と関係しているのでしょうか？」

「何か、心当たりはありませんか？」

「プールと同時に起こっていることのなかに、快眠度を下げている本当の原因があるかもしれませぬ。一緒に考えましょう。」

と、話をすることにした。

【大切にしたこと②：睡眠メモ機能を、仮説の検証のための手立てとして用いる】

新しい仮説が出たときに、それを確かめようとすることを大切にした。

そのときに、「睡眠メモ」機能はとても便利である。

「こんな睡眠メモを作ったら、その仮説が本当なのかどうか、確かめられるかもしれませんね。」

と、仮説を確かめながら、考えを深めていけることがこの実践の面白みであると思う。

【大切にしたこと③：実際の生活やエピソード・保護者の実感に沿うものであるかを重視する】

新しい仮説や視点を得たときに、Sleep Cycle についての話題でしか出てこないものではないかということを確認する。日ごろのエピソード、子どもの姿、保護者の実感から照らしてみても違和感がないかどうかを確認しながら進めることが重要だと考えた。

【大切にしたこと④：保護者にも Sleep Cycle を活用してもらい、実感を深めてもらう】

Sleep Cycle のデータについて、共感的に保護者が理解できるように、実際に体験してもらう。また、アプリの読み取り方についても丁寧にレクチャーする。この実践では、以下の観点で懇談した。

- ・自分で使う方法
- ・グラフや波形の読み取り方
- ・レム睡眠とノンレム睡眠について
- ・起きたときの爽快感と眠りの質の関係について
- ・相関関係と因果関係の捉え方について
- ・仮説の立て方について
- ・仮説をもとにしつつも、誰かを悪者にしない実践計画の立て方について

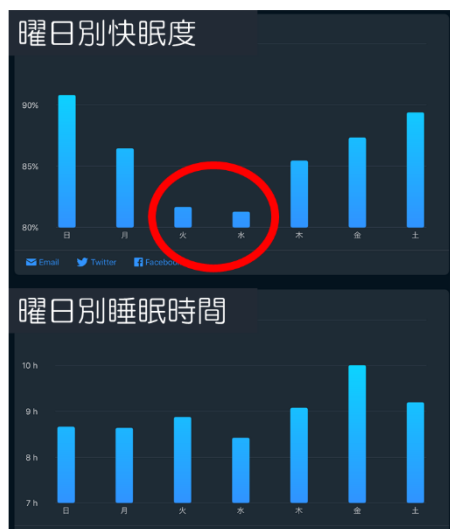
【大切にしたこと⑤：睡眠環境の確認をする】

睡眠データをとるため、どのような睡眠環境で寝ているかを確認することは重要である。

和室の一人部屋で、敷布団で寝ている状況であるらしい。この状況であれば、睡眠のデータに影響を与える他の要因は少ないだろう、と考えた。

<データを取り始めて一か月後：6月末の懇談の様子>

5月末～6月末
一か月分の積み上げデータ



実施者	保護者
火曜日、水曜日の快眠度が低いですね。	月、火、水にスケジュールを詰め込みすぎているのかもしれないです。 疲れるの かもしれない、ということでスケジュールを見直してみてもいいかもです。
お出かけ先ごとの違いがあるように見えますけど、実は 曜日との関係・スケジュールとの関係 かもしれない、ということでしょうか。	はい、その可能性はあると思います。
「 慣れない外出 」で快眠度が上昇していますね。	程よく疲れている？ のかもしれませんが。初めての場所だと、周りを伺って静かにしていることも多いです。
それでは、 もう少し知るために 、「外出なし」「いつものお出かけ」というような項目を作ってみますか？	その項目の結果と比べながら考えるということですね。
「 訓練 」では良く分かりませんね。細かく分けてもらってもいいですか？	そうしてみると次のことが見えるかもしれませんね。
「 プール 」快眠度を下げていますね。	本人は大好きで、すごく喜んで声も出しているんですけど・・・ 曜日のこととも関係していそう です。
「 実習 」は・・・緊張したんですかねえ。	うーん・・・、これは分かりません。
±3%は、何かあるかも、ぐらいで留めましょう。	はい。日常のことで受け入れている、ぐらいの解釈でいいですか？

→ 懇談のまとめ

- ・**曜日の影響が大きい**かもしれない。行く先の曜日が変われば、異なるデータになるような気がする。

→ “より深く理解するために” 新しく作った睡眠メモ

- ・「**訓練**」を、行き先別に分けてみる。
- ・「**外出なし**」「**いつものお出かけ**」という項目を作る。

<データを取り始めて二か月後：7月末の懇談の様子>

5月末～7月末

二か月分の積み上げデータ



実施者	保護者
「 慣れない外出 」、は快眠度を上げているのに、「 外出なし 」では快眠度下げているんですね。	家でずっと過ごしていると、 体力があまってしまうかも 、ということでしょうか？
「 診察 」・・・の項目、何の関係していそうですか？	診察は水曜日に行くんです。 帰宅時間が遅いから？ じゃないでしょうか。
「 お茶 」って、どんなときにチェックしたのですか？	これ、お父さんが勝手に作っちゃったんです笑。 寝る前にお茶を飲んでいるのか関係あるかも ということです。でも、何か関係あるんでしょうかね？
「 居宅 」って何ですか？	これ、お風呂の支援サービスのことなんです。家に、お風呂に入れに来てくれます。そうそう、 思い出したんですけど 、お風呂に入ると寝つきが悪い気がするんです。風呂の時間とか温度も気になるには気になります。拭いてあげるだけの方が寝れる気もするんです。
じゃあ、 確かめるため に、新しい「睡眠メモ」をつくりましょう。いつも遅いのを気にされているなら「早風呂」、お風呂の温度を下げて「38度」、いつも長く使っているなら、「シャワーのみ」「拭いただけの日」、でしょうか。	お風呂のことがいろいろと分かりそうです。
ついでに、お母さんが気にしている「帰宅遅い」というメモと、お父さんが作っちゃった項目を深めるために「寝る前にお茶を飲まない」も、作ってみましょう。	はい。

→ 懇談のまとめ

- ・外出の仕方、帰宅時間、寝る前のお茶、お風呂の入り方、という視点を得た。

→ 新しく作った睡眠メモ

- ・家で早風呂（18－19時：普段は22時）温度38度（普段は42度）シャワーのみ（いつもは浴槽に絶対つかる）拭いただけの日（あんまりない）
- ・帰宅時間が遅かった日 ・寝る前のお茶を飲まなかった ・夏休み

5月末～9月末

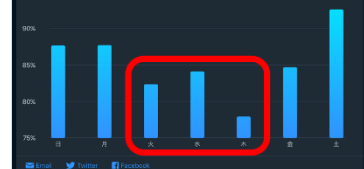
三か月分の積み上げデータ

<データを取り始めて三か月後：9月末の懇談の様子>

快眠度に貢献



曜日別快眠度

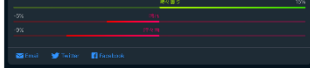


曜日別睡眠時間

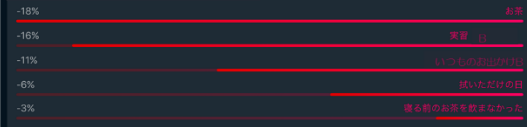


先月までの懇談では、
天気と快眠度に関するデータなし

天気と快眠度



快眠度を減少



実施者	保護者
夏休みの影響、はあるでしょうね。	はい。暑かったですし。
「曇り」+15%ってすごい影響ですね。	涼しいからなのかなと思います。暑いときの過ごし方、気をつけて観てみます。
おお、お風呂関係の睡眠メモ、快眠度を上げている項目がたくさんあるじゃないですか！	はい！
「早風呂」(+13%)、「温度38度」(+8%)、「シャワーのみ」(+6%)、って何回ずつぐらいですか？	・・・、疑うんですね？ 早風呂は3回、温度38度はずっと、シャワーのみは結構あります。
「お風呂の時間」と「お風呂の温度」が、快眠度に影響がある、ということは「確からしい」ってことにしてもいいんじゃないですか？	そうでしょ？そう思っているんですか？
でも、「拭いただけ」、は快眠度落ちてるんですね。	最低シャワー？・・・ということでしょうか？
「寝る前のお茶」は-18%で、「飲まない」と-3%というのも面白いですね。	はい、麦茶なんですけど・・・。これって、どう読んだらいいのか、分からなかったんです。
違いがある、ということが大切なのではないでしょうか。結果からは、寝る前に飲まないでもいいんですけど、本当にのどがかわいているときには困りますねえ。	自分で寝る前に飲めるように、 <u>お茶を枕元に置いておく、みたいな工夫</u> を考えます。
ちょっと曜日の疲れが動きましたね。	水曜日から木曜日が変わっていますね。でも、実感としてはやっぱり水曜日に、家族の都合でたくさんの予定を入れてしまっていると思うんです。 <u>あっ、先生、もしかして「水曜、用事なしで直接帰宅」</u> っていうメモを作ればいいんじゃないですか？

→ 懇談のまとめ

- ・お風呂の時間、温度が影響している可能性があることが分かった。拭いただけ、も嫌みたい。
- ・寝る前のお茶の提供の仕方が変わった。
- ・週の疲れのピークが変わったように見えるが、どうすればよいのだろうか。

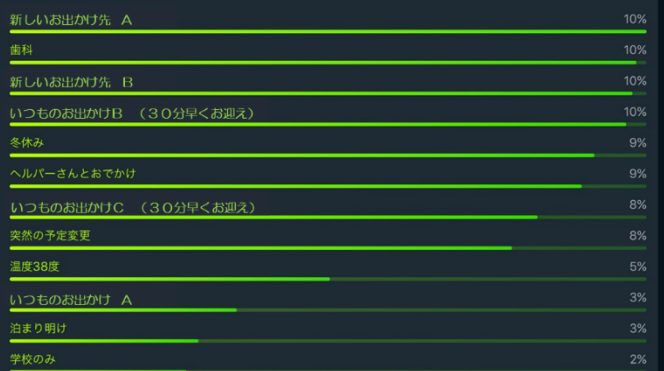
→ 新しく作った睡眠メモ

- ・水曜、直接帰宅・・・普段の水曜日は用事がいっぱい。

<データを取り始めて六か月後：12月末の懇談の様子>

5月末～12月末
六か月分の積み上げデータ

快眠度に貢献



快眠度を減少



実施者	保護者
すみません、時間をあけてしまって。	待ってましたよ！
水曜日に用事が多いのが、睡眠の質に影響を与えているのではと心配されていたのですね。	はい。
「 30分早く迎え 」に行くと+の結果で、「 帰宅時間が遅い 」と-の結果が出ましたね。	たった30分の調整で、良い影響があるかもしれない、ということですね！？
お風呂の「 温度38度 」も安定した結果ですね。	
「 突然の予定変更 」・・・ 以外にも プラスに働くのですね。	ここは、もう少し詳しく知りたいです。どんな睡眠メモを作ってみたらいいんでしょう・・・。
「 歯科 」も+10%なんですね！苦手な子が多いイメージでいましたけど・・・。何の関係しているのか、考えていくとまた面白いんでしょうね。	理由は分からないんですけど、 すごく機嫌がいい気がしていた ので、睡眠メモを作ってみました。
意味づけ を 急がない ことで、また何か新しいことが分かってくるかもしれませんよね。	はい、またいろいろと睡眠メモを作って「比べて」考えてみたいと思います！

→ 懇談のまとめ

- ・ たった30分だが、早く迎えに行くことの影響があるのかもしれない。
少しの過ごし方の違いでも、しっかりと影響を与えている、ということを感じられた。
- ・ 新たに、知りたいと思える項目が出てきている。予定変更に関係する事柄は、深く理解できると、今後の生活づくりに重要な情報になっていくと予想できる。

→ 新しく作った睡眠メモ

- ・ なし

・対象児の事後の変化

○実際の生活に影響があったこと

影響を与えた項目	内容
・お風呂の入り方	・「時間が遅い」 ・「熱い」（のぼせてしまう？） をできるだけ避ける。
・一週間の予定の組み方	・週の真ん中、水曜日・木曜日に気をつける。
・お迎えの時間	・30分の時間調整が、睡眠の質に影響を与えることに気をつける。
・寝る前のお茶	・必ず飲むのではなく、自分で手に取れる場所にお茶を置いて提示し、自分で考えて飲むようにする。
・熱いときの過ごし方	・天気が、睡眠の質に影響を与えるということに気をつける。

○生活の影響（保護者談）

【気持ちが軽くなった】

これまで、お風呂が22時なのは、父親の帰宅時間に合わせていたから。Aのお風呂のために、と仕事を切り上げて22時に間に合うように帰ってきてくれる父親に感謝している。ただ、仕事が続くと、「Aのために、早く帰ってきてほしい」と伝えていた。でも、この結果は、今まで感じていたこととちょっと違った。

実はもうちょっと早く入りたい、と思っていたのかなと思うし

42度は暑すぎ、ということか・・・汗

シャワーだけでもいい（これなら母親の私でも入れられる）・・・というのは救われるな。

今までは、お風呂にしっかり入れてあげないとかわいそう、Aはお風呂好きなのに、と思って頑張っていた。この実践で得た結果は、親として楽になる。お父さんへの言葉も、優しくなるかも笑。

お茶も、飲ませないかん！って思っていた。確かに、今まで、この子に聞き取るための方法を検討したこともあるのだし、聞けば良かったのか。この結果もあれば、飲ませておいてあげないと！という気持ちも軽くなる。

【スケジュールの組み立てという視点を得た】

小さい頃は、子どもの成長を喜び、一生懸命伝えてくれることを理解したいと思った。大きくなるにつれ、安心できる環境を、家のなかで作ることで、もっと落ち着いたり、Aの気持ちをもっとくみ取れたりすると思ってやってきた。今は、私との関係だけではなく、Aを中心とした生活があって、その中で落ち着いて、より良く過ごしてもらいたいと思っている。もちろん、どんな施設で過ごすのか、というのは気になる。でも一方で、どのように生活を組み立てようか。週の真ん中でゆっくり過ごす方が楽？こういった視点で考えたらいいな、と思えたのが嬉しい。

【子どもの感覚は親の自分とは異なることがあることを改めて感じた】

気にしていなかった風呂の温度・・・今となっては、ぐったりしていたように思う。

月曜日が疲れると思っていたのは実は私の疲れだったのか・・・子どもは水・木曜日。

週の真ん中が疲れている・・・そういえば、静かだった。疲れの影響だったのかな？

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

「A くんにより確からしい情報」を確かめようとすることで、
自然に生活を変化させることができたのではないかな。

・エビデンス

- ① ノウハウを提案していない実践であるということ（お風呂にこう入れればいいですよ、と伝えていない）。
- ② 生活に変化を与えた項目が、現段階で5つあるということ。
- ③ 保護者が「楽になった」と言っていること

【インタビュー：「楽になった」ということですが、以前と比べてどうですか？】

水曜日は疲れているらしい。お風呂が熱い・遅いと疲れるらしい。お迎えが遅いと疲れるらしい。これまでは、「〇〇した方がいい」と考えていた。そうすると、「できた／できない」「する／しない」の二択になってしまう。でも今は違う。お風呂時間は時には短縮。疲れていたら休憩を増やす。今日はゆっくり過ごしてと提案してる……。柔軟に、そのときに合わせて考えられるようになってきた。アプリを補助的に使うことで、「本人の様子を自分で観て判断する」ということができるようになってきたということなんだと思う。肩の力がちょっと抜けて、楽になった。

・その他エピソード

【インタビュー：A くんにはどんな変化がありましたか】

自分で動いてくれる場面が増えたように思う。「こっちまできて。」「〇〇取ってきて。」

あと、帰宅後から寝るまでの時間の過ごし方、も良くなった気がする。やっていることは昔と変わらない。家に帰ると、カードを使って鞆を要求し、iPad や絵本を出して楽しんでいる。そしてしばらくしたら、自分から布団に行ってすっと寝ていることが多くなった。

彼が納得してくれている場面が増えてきたということなのではないかと思っている。

○A 君が自分から布団に移動する様子



「自分から布団に移動する」というのは、本当に生活の一部を切り取ったものであるが、このような場面が増えていることを嬉しく思うとともに、この実践はどのような影響を与えたのかな、と考えさせてもらう機会となった。

・実践を振り返っての考察

【実践として良かったこと】

- ・一週間のスケジュールという視点を得られる可能性があること。
- ・天気との関係を見ることができ、可能性があること。
- ・「確かめる」ための睡眠メモの活用を通して、過ごし方を変えていくことができる可能性があること。
- ・卒業後のことは卒業後に。まずは今の生活が良くなる視点を精一杯考えられたこと。

【A君だから良かったこと】

- ・飲み物を飲むか飲まないか、を意思表示したり、自分で部屋のなかを移動したりすることができるため、得られた情報を生活に還元しやすい点はあると思う。

【課題と思うこと：保護者視点】

- ・今は、先生と一緒に話しながらメモを考えられるけど、今後長い目で見て、同じように活用できるのか？
- ・新しく気になること、確かめられること、確かめて価値のあること、を考えていくためには、今後も一緒に考えてほしい。
- ・柔軟に今後、データの見方やメモの取り方を変えていけるかどうか。

【課題と思うこと：実践者視点】

- ・ここまでの睡眠メモは、「確かめるため」の睡眠メモである。今後は、「変更した生活の効果を見るため」「新たに何か影響しているものがないかを見つけるため」など、目的や活用する方法を変更していく必要があると思う。
- ・この実践のような「確かめるための見方・考え方」を伝えていくとともに、Aくんの様子を今後も知っていくことが重要だと思う。
- ・このような「本人情報を確かめる」という実践には手ごたえを感じる。Aくんが中心となり、その情報を共有しながら支援が進むよう、アイデアを出していきたい。

それぞれの立場で本人を眺めたときに それぞれのアイデアで接することができる

